

やすらぎ



「歎異抄」(第三十六回)

標 暁 講述

(真宗聖典六三五頁〜六三六頁)

「歎異抄」第十四章 続き

ただし業報かぎりあることなれば、いかなる不思議のことにもあい、また病惱苦痛せて、正念に住せずしておわらん。念仏もうすことかたし。そのあいだのつみは、いかがして減すべきや。つみきえされば、往生はかなうべからざるか。撰取不捨の願をたのみたてまつらば、いかなる不思議ありて、悪業をおかし、念仏もうさずしておわるとも、すみやかに往生をとぐべし。また、念仏のもうさんれも、ただいまさとりをひらかんずる期のちかづくにしたがいて、いよいよ弥陀をたのみ、御恩を報じたてまつるにてこそそうらわめ。つみを滅せんとおもわんは、自力のころにして、臨終正念といひのひとの本意なれば、他力の信心なきにてそうらなり。

我々の現実生活というものは、思い通りにはいかない限界のあるものであるから、迷いの心が起った時に、常にいつもいつも間違ひなく念仏するというようなことはできない。思いがけない不慮のことに出遭ったり、病気の苦しみや臨終の時に、仏を念じて念仏することができないまま、死んでしまうということもあるのではないか。その間自分がつくった罪はどのようにして滅ぼすのであろうか。自分の力でいつも念仏して、一声、二声で罪を消していく自力のころである念仏は、これは絶対に絶やしてはならぬということになり、事実として成り立つはずがないであらう。自分で自分の罪を消していかなければ、浄土に生まれるということではできないのであろうか。そんなことはな

光照寺寺報

発行所
宗教法人光照寺

〒331-0821
さいたま市北区别所町102-2
電話：048-651-2781(代)
FAX：048-651-2753
E-mail
yasuragi@beige.ocn.ne.jp
ホームページ
http://www8.ocn.ne.jp/~koshoji

発行人
池田孝郎

はずである。撰取不捨とは、撰取も捨てないこと。かぎりのないひかりのうちに撰取されて、再び迷い苦しむことのない阿弥陀仏の救いである。今まで障りになつて障りにならな

を唯一つの最後の依り処として、御恩を報謝する。信心の人は本願の御恩を報謝するという気持ちで念仏させていた。それは本願を最後の依り処として生きることができるようになった私の究極の落ち着きどころがはつきりしたという御恩である。

今の機械文明の経済社会の生活の中で、我々は単なるモノづくりの機械ではないのだということをはつきりさせて、人間として生きる意味を知り、死ぬことにも積極的意義があることを知る。経済社会の生活をしていても、そのことは生きていくための一つの手段に過ぎないのだとわかつて、聴聞して目覚めて生きていくということが本当に大事なことである。

(当寺)「法話抜粋要約、文責副住職 釈徹照」



盆会法話
孟蘭住職



盆会勤行
孟蘭

報恩講

先照寺護持会総会報告

子供会報告

十月二十八日(日)十二時 厳修

詳細は三頁

詳細は四頁

詳細は五頁

む げ こう 無 碍 光

一凡夫が仏になる法一

住職 池田 孝郎

思考の源流、根源を尋ねる、「求道の志の方向性」でありました。

私が結論から申し上げれば「人間には絶対はない、絶対は如来に存する」と云いたいことです。

当寺の掲示板に、真宗大谷派、東京教区の標語を掲示しております。その言葉は「現代の愚かさは知性に満ちた愚かさである」とあります。正に言い当ててあります。

人間が傲慢になって、自然を克服し、科学的知見に於いて万物の霊長の頂点に君臨し、愚かさを忘却してしまった姿が今日のすべてと云つても過言ではないと思えます。大いなるものへの畏敬の念を忘却し、人間が絶対者となっている錯覚でありましょう。

人間は学習の動物ともいわれます。人間が営々として築いて来た栄光と挫折成功と失敗喜びと悲しみから学び、尚かつ克服して来た人類の英知の所産が知識となり、その事を学び教えて来たのが「教育」でありましょう。

私はここに「教育の功罪」の例を上げてみたいと思います。それは「アマラとカマラ」です。一九二〇年にインドで発見されたと言われる二人の孤児の少女であります。人が狼に育てられれば、姿は人間でも狼と同じになると教えられた実例を学校の教科書でも習いまし

た。私も教育環境によつて人間は狼にもなると信じており、教育の大事さの実例として深く自戒して生きて来ました。人間はそれほど被暗示性の強い、本能を忘れ、大脳皮質の学習領域の発達した生物であると深く信じて疑いがありませんでした。が、しかし、最近この「アマラとカマラ」は孤児院を運営する伝道師ジョセフ・シングの捏造説を知るにおよび、人間の知の危なく脆い脆弱性を思い知らされたことです。又、杞憂の故事の様に、天地が崩れ落ちるのを憂えたという中国の杞の国の人と同じ恐れを持つ、あれこれ無用の心配に「喜・憂するもの人間の常でありましょう。

仏法では「常楽我淨」を人間は求めるが、「常楽我淨」ありと思うのは顛倒の姿であると教えて下さいます。人間は常に変わらない世界、永遠不滅の世界を求め、楽しみに満ちて、そして、清らかな清淨の世界を夢みて、その様な世界の我でありたいと願う存在なのであります。しかしながら、自己本位の自我の私、人間の上へには望むれど実現は不可能と教えて下さるのが仏教です。「淨楽我淨」は如来の世界に属するのです。「空・無我」を知つて、退転しない教えこそ、「知進守退」の釈尊の智慧です。

合掌

真の依り処

お盆も終りまもなく秋の彼岸が参ります。月日の過ぎるのが早く感じる今頃です。亡くなった人は姿形は消えこの目に見えませんが、心は輝いています。お浄土で又必ず遇えますもの。お念佛は亡き人から思われている念佛です。時には宿業因縁に涙が出る。涙は愛情の表現でしょう。一人でに涙がこぼれ落ちてきてしまします。人生の無常観は人間の最もつらいときに仏様を尋ねますとなんとその時すでに救われ支えられており慈しみが生きる源になります。variなく日々を過ごさせて頂いております。ありがたさに手を合さずにはいられません。いのち、佛が私達の為に願っておられるほんとうのいのちに目覚め、いのちに生き歩ませて頂くかたじけなさを嬉しく感謝申し上げます。合掌

岡田ノリ子

鈴の音

気がつくということとは、
迷いてあったと悟ることです

安田 理深
（「信仰についての対話」）

昨年は報恩講へ多くの参詣者がありました。お彼岸やお盆の法要は参詣者が多く、報恩講は少数になつてしまうことが多いのですが、昨

【報恩講は宗祖、親鸞聖人のご恩徳に報謝し、いのちの道理を深く尋ねる法要で、一年の中で最も大切な仏事です。真宗門徒として必ず勤める法要であり、光照寺の今年度最後の大きい法要ですので是非ともご参詣下さい。今年も樺暁先生をお迎えして厳修致します。】

ご家族、縁者お誘い合わせの上、ご参詣下さい。お待ちしております。

副住職(釈 徹照)

年は違つて多くの参詣者があり、大変嬉しい気持ちになつたのは私だけではありませんでした。
亡き人のため、という気持ちから亡き人を縁として自らいのちの道理を聞き開いていこうという現れではないかと思ひました。
先生は浄土真宗の救済の真髓を懇切にお話し下さります。

報恩講

報恩講

- ・ 10月28日(日)
午前11時～3時まで
(10時30分受付)
- ・ 日中法要厳修
- ・ お斉(お食事)
- ・ 法話 樺暁師
(元教学研究所所長、
法泉寺前住職)
- ・ 講題 真実の宗教
— 私にとって報恩とは—
- ・ 場所 光照寺本堂

※準備の都合上、出席の際はお寺にご連絡下さい。

ひとくち 歎異抄

羅漢：生死を解脱する心掛けは如何に。

「一生のあいだもうすところの念仏は、みなことごとく、如来大悲の恩を報じ徳を謝すとおもうべきなり。」

第十四章



真宗門徒は『恩徳讃』を唱和します。粉骨碎身の報恩の念仏です。

川越喜多院の五百羅漢



藤原さん感話



総会の様子



委嘱状授与式



総会婦人有志合唱

護持会総会報告

淡 海 雅 子

平成二十三年度第十三回光照寺護持会総会が六月二十三日十時より光照寺本堂において多数の会員が参加し開会されました。

勤行（正信偈同朋奉讃）に続き、婦人部と子供たちの有志の合唱に合わせ全員で「真宗宗歌」・「恩徳讃」・「いのち」を合唱しました。

引き続き蓮如上人御一代記聞書より『人生の一大事』と題して佐々木玄吾師（元豊平道場主）よりご法話をいただきました。過去に感謝し、現在を喜び、未来に使命を感じる事が大切である。私において「わが身を嗜む」とはどういうことか。我というものは聖典を依り処にして生きていくところにある、私の確立が共よという世界を開く。信心決定して念仏申す身になることが「人生の一大事」であると同じました。「他力の悲願はかくの如きのわれらが為なりけり」と、ただでているかと、問われるお話でした。

総会は佐々木玄吾会長を議長に議案に入りました。前年度の護持会活動実績及び収支決算・監査報告がなされ、全員一致で承認されました。今年度の護持会活動計画案及び収支予算案が提案され、いずれも原案通り可決承認されました。今年度は役員改正にあたり太田廣彦氏が会計監査の任を辞され庶務となり、新会計監査には川澄英明

氏が就任されました。また、新たに北川美智雄氏、平山正三氏、谷口正司氏、藤原自雄氏、村長修氏の五名が庶務に新任されました。新役員には御住職様より委任状の授与があり、今年度よりの新たな活動への願いが話されました。副住職様より聞法会の紹介、大塚陽子さんより子供会（ポニークラブ）の年次計画とお誘いがありました。

御住職様より光照寺護持会、報恩講が勤まってきました歴史が語られ、お念仏の相続と光照寺護持の強い思いを伺いました。また、副住職様のご結婚の報告と新婦となられた恵美様ご紹介されました。光照寺の歴史に新たな一頁が加わりました。その後お斎を頂きながら初めて参加された方々の自己紹介、感話発表がありました。絵解きサークルの方が蓮如上人の絵伝より「嫁威しの鬼面」「腹籠りの聖典」を副住職様伊東氏の編集による映像を背景に語られました。

今年度はアトラクションとしてウクレレグループの演奏とフラダンスが披露されました。本堂にハワイアンが流れ、梅雨明けしたような真夏の雰囲気包まれ明るい笑い声にあふれ和やかな時間を過ごしました。

最後に全員で恩徳讃を唱和し閉会いたしました。今後とも皆様のご支援ご協力をお願いいたします。



トロピカル・シスターズのフラダンス



アロハ・ジョーカーズの演奏



佐々木玄吾師ご法話



絵解きサークル発表

子供会報告

子供会ポニークラブ

「バーベキュー&ジャンケンポン」を終えて

坊守 池田 邦子

八月十九日(日) うだるような猛暑の続く中、大人十四名・小人九名の方の参加を頂きました事、本



当に嬉しく思いました。太陽の照りつく中、朝一番に副住職と伊東さんそれから村長さんには、テントやパラソル設置等の準備をして頂きました事、感謝感謝。
今回初めて住職におはなしを頂きました。「一番何が大切か」の質問には、いのち、食べ物、

こころと、まとを得た答えが子供達からそれぞれ返って来ました。(それがナムアミダブツかしら)

絵本の読みきかせは、ちよつと長かったかなと……コミユニケーション不足が多々あったように感じられ、色々反省点がありました。皆様の協力の下、楽しく無事に出来ました。

水着に着替えてのシャワーをあびて、子供達も大はしゃぎ、バーベキュー、焼ソバ、カレー、もちろん、大人の方はビールに満喫。スイカ割りはその子も皆適中、お腹いっぱいになりました。



男性の方には、汗だくになりながらヤサイ、お肉を焼いて下さり有り難とう御座居ました。
夏休みの思い出として、子供達に記憶してもらえたらありがたいです。次回は十二月冬休みに企画したいと考えております。
さらなる方々の参加をお待ちしております。

子ども会のバーベキューに参加して

大塚 陽子

私は、毎回スタッフとして、次の子供会は何をしようかと坊守と相談し話し合うのですが、昨年は大宮にある猿花キャンプ場でデイキャンプをしたので、今年の夏の子ども会もデイキャンプをしようということになり、そして場所はお寺の南側の土地でやろうということに決まった。

毎回子ども会にも参加して、うな人達に案内を出して呼びかけ、参加人数が集ま

るかいつもハラハラするのですが、夏の子供会は大人数の方の参加を含めて二十三人で、今回は初めて参加してくれた子供たちもいて、ちょうどいい人数で行なえてよかったです。
当日はとても暑かったので、熱中症にならないようにテントをはったり、パラソルを置いたり準備はしてあったのですが、それでも日中は気温が高かったので心配でしたが子ども達には、ホースを使ったシャワーが大人気で、プールで遊んだりして、水遊びを楽しんでいました。

バーベキューの方は、男の方の協力で、炭おこしから、お肉や野菜を焼いたりしていただいて、皆さんでおいしくいただきました。
その後のすいか割りやじゃんけんゲームも皆さんで楽しみました。

最後に子供会を終えて感じたことは、段どりがスムーズにいかなかったことで、終わる時間が少し長びいてしまったことです。今回はお寺





絵本の読み聞かせでは子供たちが絵本を囲むように集まり、じっと聞いている。たのびのイメージ的でした。その後、その後のカレーやバーベキューでは、普段お外で大人

でのバーベキューということで準備や片づけが大変だったので手間どってしまったのですが、保護者の方や皆さんのご協力で、無事終えることができてよかったです。本当にありがとうございました。

子ども会

大塚 真由

子ども会に行きました。平成JUMPの曲をBBQでかけたのでよかったです。すいかわりが、楽しかったです。

ポニークラブ2012夏

池田 恵美

今回の光照寺ポニークラブのバーベキューは、朝から真夏の日差しが照りつける中、皆様にお集まりいただき感謝しております。

絵本の読み聞かせでは子供たちが絵本を囲むように集まり、じっと聞いている。たのびのイメージ的でした。その後、その後のカレーやバーベキューでは、普段お外で大人

数で食事をするのが減多にないの、開放感から思わず食が進みました。食後の水遊びやスイカ割りでは子供たちの楽しそうな表情が伺えて良かったと思います。

夏の子供会

池田 江美子



真夏の暑い日でしたが、前の広い土地でのバーベキューは開放感にあふれ、楽しかったです。

自由にかきまわったり、お友達と水遊びをしたり、毎年、楽しい思い出を積み重ねてもらいたいです。準備から当日の運営までお世話になりました。本当にどうもありがとうございました。

こどもかいへいったこと

いけだ ひかる

バーベキューがたのしかったです。すいかがおもしろかった。おてらであそぶのがおもしろかった。

おてらのこどもかい

いけだ たつる

バーベキューがたのしかったです。ソーセージがたべたかった。おみずあそびがすきだった。

子供会に参加して

小刀 祐子

子供の喜ぶ姿を見ることは心が癒されます。毎年四月に花まつり、そして去年に続きバーベキュー大会。去年は雨の中市営のキャンプ場で楽しい時間を過ごしました。木を切ったり釘を打ったりポンドを使ったりして面白い作品を作りました。冬には駐車場で焼いもパーティーをしました。坊守さんの用意して下さった豚汁のおいしかったこと、北風の中で心の中まで暖かくなりました。

八月は猛暑の中お寺の前の空地に大型パラソルとテントを張りビニールプールも用意され、子供達は大はしゃぎ。焼き専門の平山さん、村長さん、大塚さん、灼熱地獄でした。時のたつのも忘れる程楽しい一日でした。

楽しかったバーベキュー

さとう ゆういち

八月十九日ポニークラブのバーベキューをお寺でやりました。ぼくは土日は野球の練習があつたけど、野球は毎週あるからお寺に行ったほうがいいと、母もじいじも言ったので



お寺にいきました。おきようとなえたと、に、じゆうしよくのお話を聞きました。



楽しかった水あび

いっぱいになって、スイカが食べられませんでした。ビニールプールのお水が、太陽の日ざしにあたつて、お湯になっていました。シャワーをみんなでかけつこして、にじが出たりしました。じゅうしよくさんにもいっぱいほう水して、おもしろかったです。

その後ジャンケン大会をして一位になり三本セットのペンをもりました。またらいねんにもさんかします。

子供会に参加して

平山 正三

この度、子供会の行事に娘夫婦及び孫娘二人と初めて参加させて頂きました。

勤行、住職法話等の後、外でバーベキュー、スイカ割り、水遊びと普段できない事を体験し、孫達には大変楽しい有意義な一日だったと思います。

私も入れ歯を忘れBBQが食べられず、ちよつぱり残念でしたが、たくさんの子供達と童心に帰り楽しい一日を過ごさせて頂きました。

ありがとうございます。

夏の思い出

平田 恵子

今回、子供達の夏の思い出作りにと思い、家族で参加させて頂きました。暑さが厳しい中でしたが、子供

達は元氣一杯でした。

まずは七歳と四歳の娘達が正座してお経

を読む姿に成長を感じました。



その後、屋外でBBQ、子供達が沢山のお肉や野菜を頼張る姿が微笑ましく印象的でした。普段は好んで食べないトマトを美味しいと言つて食べたり、少食の娘がお肉を沢山食べる姿を見て、とても嬉しく思いました。

最後にスイカ割りや水遊びで子供達の満面の笑顔が見られ、大満足の会になりました。このような体験ができたことは子供達の宝になることだと思います。この会に参加でき感謝いたします。ありがとうございます。

おいしかったバーベキュー

平田 桃子 二年生

わたしは、おじいちゃんと家ごとでバーベキューにさんかしました。まず、おきょうを読みました。つぎはそとでおにくを食べました。食べおわると、水あそびとスイカわりとじゃんけんゲームをしました。お父さんはとちゅうからきて、わたしが

「いまスイカを食べているよ」と言いました。そのスイカは、あまくておいしかったです。バーベキューはおにくがジューシーとしておいしかったのでたくさん食べました。どれも楽しかったです。

楽しかった思い出

平田 奈々子 四歳

おそとで、おにくをたべておいしかったです。カレイライスもおいしかったです。そのあと、スイカわりをしたけどわれなくて、そのスイカをきつてたべたらとてもおいしかったです。みずあそびもとてもおもしろくて、もうかいやりたいうぐらいいでした。

村山 結衣、村山 達哉の

おばあちゃん 松崎 典子

八月十九日子供会主催のバーベキューが行なわれました。大勢の大人



の方に手助けを頂き子供達は、大はしゃぎ。猛暑の中水遊びで頭から水をあびな

がらも暑さにもまけず元気です。

小さな子供達を見てみると私も元氣をも



らえます。

本の読みかせ、ジャンケン大会スイカ割と子供達は大喜び、目が輝いています。正信偈をとる時、一年生の孫の結衣は最後まで、一緒に声を出し、座る事が出来ましたが、五歳の孫の達哉は、あつちこつと歩き座って、いませんが其の内に成長して他の子供達のように座れる様になる日が来る事を願い、又、子供会が増々栄える事を願っています。

むらやま ゆい

わたしは、おてらのこどもかいのバーベキューでいちばんたのしかったです。おとうとのたつやもはしゃいでとてもたのしそうでした。

おとうとのたつやもはしゃいでとてもたのしそうでした。

むらやま たつや

ぼくは、おともだちと、あそんだのが、いちばんたのしかったです。

お知らせ

— 寺務所より —

◆法要のご案内

●報恩講 十月二十八日(日) 午前十一時より厳修。

●修正会 平成二五年一月一日元旦、午後一時より厳修。新年を阿弥陀如来のご尊前より出発致します。

◆聞法会のお知らせ

●親鸞聖人のみ教えに聞く会 毎月開催。午後一時半～四時半まで。講師は樸晧先生。和讃を学んでいます。日程は当寺にお尋ね下さい。(※十月は報恩講です)

●大経の会

十月二十日、十一月四日、十二月十六日、午前十時～午後三時まで。講師は佐々木師と住職の担当月別『正信偈讃仰Ⅳ』を学んでいます。お弁当持参して下さい。

●我聞の会

十月三日、十一月十二日、十二月五日、午後二時～四時まで。講師は住職。『真宗の簡要』(住職著)を学んでいます。

●微風学舎

毎月開催。午後七時～九時まで。講師は副住職。『顕浄土』の教学、親鸞における現生不退の視座、(副住職著)を学んでいます。日程は寺にお尋ね下さい。

◆さいたま親鸞講座

午後二時～四時。会場は大宮川鍋

ビル。十月二十日、十二月八日、平成二五年二月九日、四月十三日、六月八日。

◆お願い

ご自宅で法事の際は駐車場をご利用下さい。

住所・電話番号変更の際は必ずご連絡下さい。宜しくお願いします。

俳句・川柳

吉澤 光昭

夏草や黙すレリーフ一の倉
焙焙も年季の入りて迎え盆
干し物の乾きてまぶしうろこ雲

西木 順子

鈍豆に物干し竿を取られたり
鈍豆の莢縦横に蟻走る
積乱雲マラソンランナーひた走る

花岡 要

なんとなくうれしくなりぬ九月来る
初秋の花ついている石榴かな

河野 日出子

行く水に逆らいもせで下り鮎
登り来て霧立ち込める峠かな
ねむの木も眠気取られて含羞草

天空を仰げば闇の逢瀬かな

渡る風頭を垂れて百日紅

松影や惜夏の愁いおぼろ月

遠雷に虫の音聴いて秋立ちぬ

篠原 潤子

百均の温度計目盛り見やすきなり
恵比寿の街インクのピンとペンを
買ひ新盆や魚型菓子をおくるなり
喜怒哀楽の一字で暮らしたい喜怒哀楽の凡夫の我のお念仏
ひぐらしはバス待つ我の横に来る

山田 恒

振りむくと生きた証が消えている
未だまだと少しアンテナ高くする

釈 義深

万病は心からだと言はれます
健康は心穏やか暮すこと
幸せは南無阿弥陀仏で頂ける

短歌(詩)

佐藤 セツ子

『野薔薇咲く道』
庭隅の野薔薇一枝活けしよりわれ
の想いはふる里に飛ぶ五月には野薔薇の満てるふる里の
川辺の道を今も恋おしむ乱れとぶ蜜蜂の羽音のみ聞こえ刻
を忘れて薔薇の香に酔いき
D51の汽笛にわれをとりもどし

野薔薇咲く土手の道を帰るぬ

「嫁さんにも華教えてね」と言いし
子よ昨日も今日も供華活かしている

河野 日出子

ホウズキを含めば甘く青ぐさき幼
き頃が口に広がる朱き陽は既に傾き月の出づうす暮
れ色のしばし続くも雷鳴止まずして雨去りぬ雲の行方
に宵待の月

篠原 潤子

古トイレ三十年尿石で穴がつまり
て流れぬペーパー
尿石をガリゴリガリリかきほじる
堅い尿石顔つつ込んで古トイレ詰まりがとれて穴があく
魔法のごとく流れるペーパー

梵鐘

お寺の子ども会

三輪 民子

光昭寺子ども会云、ボニークラブは、子どもの時から、寺に親しみをもち、無理なく真宗の教えが身につく機会が欲しいとの坊守の願いから、夏の「お楽しみ会」春の「花まつり」と、年一回行われて今回で七回目となった。本堂で出席カードにはんをもらって、真宗子ども手帳でおとめして始まる。護持会員の孫と住職の孫、その時々で出席出来る会員、今回は子ども九人、おとな十四人、子どものお母さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんにとりやか。先づ出席者ひとりひとりの自己紹介、三才から高校生までみんなマイクを持って恥ずかしがりながら、やつと出来る子ども、堂々とお兄ちゃん達に負けずにやつと誇らしげな子どもいい体験をした。親鸞さま、蓮如さまの絵本の読み聞かせが済んで、外で昼食パーベキュー、カレーの後、スイカ割り、プールとホースの水あび等、とても楽しい会でした。



花岡 要 画